

その他 (資料)

中国人の母親の乳幼児に対する関わり意識

Mothers Involvement Consciousness toward an Infant in China

早瀬 麻子

HAYASE Mako

田尻 后子

TAJIRI Kimiko

松村 恵子

MATSUMURA Keiko

抄 録

本研究は中国で生活している中国人の母親を対象に、乳幼児に対する関わり意識を明らかにすることを目的とする。方法は自記式質問紙調査法とし、28項目からなる「乳幼児に対する関わり意識」、育児に対する認知、乳児の世話経験などを調査した。分析対象は中国北京市在住の子育て中の母親20名とした。その結果、中国に住む中国人の母親において、乳幼児に対する関わりは肯定的な意識が高く、否定的な意識が低かった。また、6割の母親は子どもが小さいうちは育児に専念するのが望ましいとしつつ、働きながら子育てをしている人が多いことが明らかになった。

キーワード ■ 子育て, 乳幼児, 中国人の母親

I 緒 言

乳幼児期は、母性を持った大人による世話が不可欠であり、急激な成長発達には人生の基盤を形成するために極めて重要な時期である。J. Bowlby¹⁾は愛着理論の中で母親(信頼できる大人)と継続した愛情に満ちた相互関係を築くことが成長発達に重要であると述べている。そして、野澤ら²⁾は、乳幼児の発達を支える保育の在り方を重要視している。つまり母親(大人)がどのように子どもと向き合い、接しているかが子育てをする上で大切となる。

松村³⁾は『子どもを育てる』という営みは世界各国いずれにおいても共通といえる。しかしながら、人間の文化的多様性は際立っていることから、その国の文化特有な子育てに関する意味づけや認知的概念枠組み、行動様式が存在する。」と述べている。すなわち、子どもを育てる思いや行為は共通した部分を持ちながら、その国で培われてきた価値観や性役割、文化的背景、またその国の社会情勢などと大きく関連している。

中国は14億人を超える世界最大人口を有し、その首都である北京市は華北中央に位置している。また政治の中枢を担い文化、経済、教育の中心地でもある。1979年から人口増加を阻止する目的で一人っ子政策が開始されたが、生産人口の減少等により廃止となった。2018年の年間出生数は1623万人、合計特殊出生率は1.7⁴⁾で減少に至っている。子育てにおいては、中国文化として祖父母と共同育児することが一般的である⁵⁾。支援体制が受けやすい状況であると考えられるが、母親の育児ストレスはブラジル、韓国、日本に比べ最も高いことが明らかにされている⁶⁾。しかし、中国での子育てについて、一人っ子政策以降の情報は少ない。日本と異なる政治体制や急激な経済発展により生活が一変している現状から中国の子育て事情に注目した。そこで、アジアの国と比較しながら母親の乳幼児に対する関わり意識を検討し、幼く弱いいのちを慈しむ心を育てるために何が必要であるかを考え、今後の支援の一助としたい。

Ⅱ 研究目的

中国で生活している中国人の母親の乳幼児に対する関わり意識を明らかにすることである。

Ⅲ 用語の定義

乳幼児に対する関わり意識：母性意識の構成要素のひとつであり、乳幼児と対峙した際に抱く肯定的な意識と否定的な意識のこと。

Ⅳ 研究方法

1. 対象者

中国北京市に在住している乳幼児の子育て経験のある中国人の母親

2. 調査期間

2022年1月～2022年3月

3. 調査方法および測定用具

調査方法は、中国北京市にある医療施設を通じて、乳幼児を子育てしている、また子育て経験のある中国人の母親に中国語による自記式質問紙調査を実施した。測定用具は、松村⁷⁾が作成した28項目からなる「乳幼児に対する関わり意識」でその内容は、1) 乳幼児こそ生きがい等、乳幼児の思いに関する項目、2) 乳幼児と関わることで自分も成長する等、自己の成長に関する項目、3) 自分の思い通りにできない等の育児不満に関連する項目、4) 乳幼児と関わることの肯定と否定等の項目の4つの下位尺度から構成している。評定は、①全く違う、②違う、③どちらでもない、④そうである、⑤全くそうである、の5段階とした。尺度の信頼性については、Cronbachの α 係数は0.733であり、内的整合性が確認されている。また、各因子と下位尺度の間には対応があり、構成概念妥当性は確保されている。その他調査項目は、「乳幼児の世話経験」、「育児に対する認知」、および属性9項目（年齢、性別、夫の年齢、仕事有無、子どもの数、子どもの年齢、きょうだい、世帯数、保育園通園有無）である。

4. 倫理的配慮

研究目的、方法、研究に対する同意の意思を書面で説明し、了解を得た者のみ回答するように依頼した。説明内容は、1) 自由意志による協力依頼であること、2) 研究目的と方法、期間の提示、3) プライバシーの保護、4) 匿名であること、5) 研究で得られたデータは、本研究以外の目的では一切使用せず研究終了し公表後はすべてのデータを破棄すること、6) 研究論文の公開についてである。回答後は個々に封筒に入れ回収した。尚、佛教大学倫理審査(2021-24-B)の承認を得た。

5. 分析方法

IBM SPSS 26.0 統計解析ソフトを用い、対象の属性および乳幼児に対する関わり意識の28項目、乳幼児の世話経験、および育児に対する認知については記述統計を行なった。また、28項目の相関分析を行ない項目間の相関を明らかにした。

V 結果

調査用紙は32名の回答を得た（回収率70%、有効回答率64%）。その内、男性を省いた中国人の母親20名のみを対象者とした。

1. 対象者の属性

対象者の平均年齢は35.5(±3.2)歳、対象者自身のきょうだいの数は平均1.6(±0.7)名でほとんどが一人っ子であった。家族世帯は、夫婦と子どものみの核家族は7名(35%)、実

表 1. 対象者の属性

n=20

		平均	SD	Range
年齢(歳)		35.5	± 3.2	31-41
きょうだい数(人)		1.6	± 0.7	1-3
夫の年齢(歳)		37.3	± 3.5	32-43
第1子年齢(歳)		5.2	± 2.9	1-12
第2子年齢(歳)		2.8	± 2.0	1-6
		人数(人)		%
世帯	核家族	7		(35.0)
	同居	13		(65.0)
子ども数	一人	15		(75.0)
	二人	5		(25.0)
保育園通園	有	13		(65.0)
	無	7		(35.0)
仕事(8時間以上)	有	16		(80.0)
	無	2		(10.0)
	無回答	2		(10.0)

父母や義父母などの親と同居している者は13名（65%）であった。また子どもの数はひとりが15名（75%）と、多くは子ども世代も一人っ子であった。就業状況として8時間以上の勤務をしている者は16名（80%）と大半はフルタイムで働いていた。（表1）

2. 乳児の世話経験

乳児の世話をした経験について、5. おむつ交換の経験は全員が「よくある」と回答した。次に経験が多いものは、4. ミルクを飲ませる項目で19名（95%）が「よくある」と回答し、ほぼ同数で、1. 赤ちゃんを抱く項目に「よくある」と回答した者は18名（90%）であった。反対に2. おんぶの項目は「全くない」は7名（35%）、「あまりない」も7名（35%）で7割の者がほとんど経験していなかった。3. ひとりで子守りの項目は「あまりない」が4名（20%）、「時々ある」は10名（50%）、「よくある」は6名（30%）であった。（図1）

3. 母親の育児に対する認知

母親は子どもが小さい時は育児に専念するのが望ましい、に「賛成」が8名（40%）、「どちらかといえば賛成」が5名（25%）と肯定的な回答は65%であった。一方「反対」と回答したのは2名（10%）で少数であった。（図2）

4. 乳幼児に対する関わり意識

乳幼児に対する関わり意識28項目のうち、中国人の母親で最も高かったのは「28. 乳幼児は元気に育ててほしい」 4.70 ± 0.57 であった。次に「8. かわいいので抱きしめたい」 $4.47 \pm$

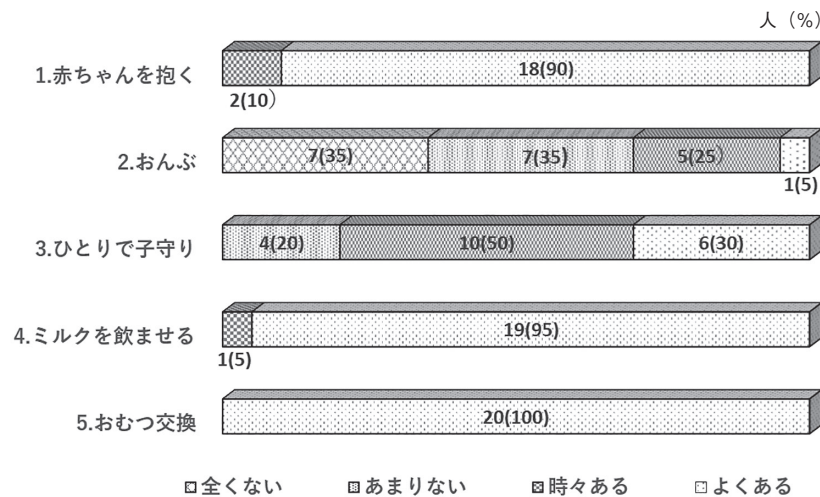


図1. 乳児の世話経験

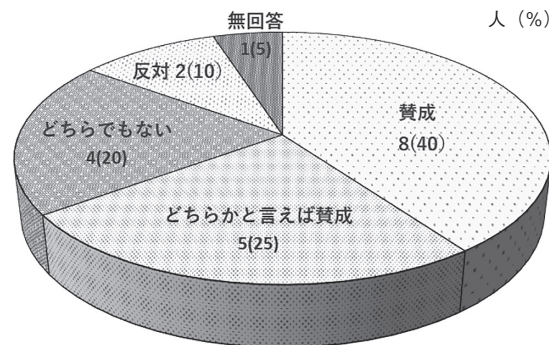


図2. 母親は子どもが小さい時は育児に専念するのが望ましい

0.61, 「7. 自分も成長する」 4.20 ± 0.70 , 「25. 乳幼児と一緒に楽しい」 4.15 ± 0.75 , 「17. いたおしく守ってあげたい」 4.05 ± 0.83 などの5項目が高値を示した。

一方、最も低かったのは「1. 楽しみや趣味を持ってない」 1.90 ± 0.64 であった。「11. 乳幼児の関わることに適していない」 2.10 ± 0.64 , 「14. よく泣くので関わりたくない」 2.10 ± 0.64 , 「16. 乳幼児と一緒に気分転換できない」 2.25 ± 0.72 , 「22. オムツなど汚い世話はしたくない」 2.25 ± 0.97 , 「23. 世間から取り残される」 2.30 ± 1.08 など6項目が低値であった。(表2)

5. 乳幼児に対する関わり意識の関連

乳幼児に対する関わり意識について、項目間で強い正の相関がみられたものは、「26. 乳幼児と関わっているときが自分らしい」と「27. 乳幼児こそ生きがい」($r=0.787, p<0.01$)であった。「6. 自分の思い通りにできない」は「13. 乳幼児よりも他のことに興味がある」($r=0.734, p<0.01$), 「15. 活動が制限されてつまらない」($r=0.699, p<0.01$)との2つの項目と正の相関がみられた。「15. 活動が制限されてつまらない」は「9. イライラする」($r=0.814, p<0.01$)との正の相関があった。また、「14. よく泣くので関わりたくない」は「11. 自分は乳幼児と関わ

表 2. 乳幼児に対する関わり意識

n=20

	平均値	SD
1.楽しみや趣味をもてない	1.90	0.64
2.何かものりない	2.40	0.99
3.気持ちが安定する	3.50	0.76
4.自分を優しい人間にする	3.35	0.81
5.自分の表現を豊にする	3.45	0.69
6.自分の思い通りにできない	3.15	1.09
7.自分も成長する	4.20	0.70
8.かわいいので抱きしめたい	4.47	0.61
9.イライラする	2.60	0.82
10.一緒にいると毎日に充実感がある	3.80	0.70
11.自分は乳幼児に関わることに適していない	2.10	0.64
12.乳幼児の為なら何でもできる	3.65	0.93
13.乳幼児よりも他のことに関心がある	2.55	0.94
14.よく泣くので関わりたくない	2.10	0.64
15.活動が制限されつまらない	2.65	1.04
16.乳幼児と一緒にでは気分転換できない	2.25	0.72
17.いとおしく守ってあげたい	4.05	0.83
18.乳幼児と関わりと疲れる	2.75	0.79
19.視野が狭くなる	3.05	1.00
20.乳幼児に一番の関心がある	3.89	0.74
21.乳幼児と一緒にでは我慢することが多い	3.70	1.03
22.オムツ交換など汚い世話はしたくない	2.25	0.97
23.世間から取り残される	2.30	1.08
24.乳幼児よりも自分の事に関心がある	2.45	0.89
25.乳幼児と一緒に楽しい	4.15	0.75
26.乳幼児と関わっているときが自分らしい	3.10	0.97
27.乳幼児こそ生きがい	3.05	1.10
28.乳幼児は元気に育てほしい	4.70	0.57

ることに適していない」($r=0.744$, $p<0.01$), および「16. 乳幼児と一緒にでは気分転換できない」($r=0.745$, $p<0.01$) と 2つの項目との正の相関がみられた。

一方、「3. 気持ちが安定する」は「15. 活動が制限されてつまらない」($r=-0.765$, $p<0.01$), 「22. オムツ交換など汚い世話はしたくない」($r=-0.680$, $p<0.01$), 「9. イライラする」($r=-0.590$, $p<0.01$) との3つの項目に負の相関が見られた。「9. イライラする」は「8. かわいいので抱きしめたい」($r=-0.673$, $p<0.01$), 「3. 気持ちが安定する」($r=-0.590$, $p<0.01$), 「20. 乳幼児に一番の関心がある」($r=-0.520$, $p<0.05$) と「25. 乳幼児と一緒に楽しい」($r=-0.499$, $p<0.05$) との4つの項目との負の相関がみられた。(表3)

表3. 乳幼児に対する関わり意識の関連

	n=20																												
	1楽しむか	2何かをやる	3気持ちよく	4自分自身で	5自分で	6自分で	7自分で	8かかわり	9イライラ	10一番	11自分	12乳児	13乳児	14よく	15活動	16乳児と	17いと	18乳児	19乳児	20乳児	21乳児	22ママ	23世間	24乳児	25乳児	26乳児	27乳児	28乳児	
	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく	気持ちよく
1 楽しみや興味をもてない	1	0.396	-0.324	-0.131	-0.371	0.023	0.283	-0.145	0.22	-0.401	0.282	0.114	0.009	.538*	0.419	.631**	0.109	0.052	-0.156	-0.013	0.191	.467*	0.198	0.361	0.143	0.017	0.157	0.058	
2 何かもたらない	0.396	1	-0.556*	-0.443	-0.355	0.136	0.106	-0.477*	0.4	-0.182	0.347	-0.011	0.202	0.429	.448*	0.222	-0.474*	-0.135	0.085	-0.395	0.021	.657**	0.372	.620**	0.511*	0.066	0.077	-0.426	
3 気持ちよく安定する	-0.324	-0.556*	1	0.128	-0.05	-0.413	-0.099	0.266	-0.900**	0.199	-0.108	-0.259	-0.33	-0.216	-.765**	-0.435	0.042	-0.22	0.104	-0.017	-0.403	-0.680**	0	-0.429	0.232	0.357	0.283	-0.121	
4 自分を優しく人間にする	-0.131	-0.443	0.128	1	0.08	0.294	0.149	0.184	-0.252	0.316	-0.273	.517*	0.353	-5.76**	0.028	-0.158	0.051	0.062	-0.023	.520*	0.258	-0.117	-0.306	-0.084	.604**	-0.114	0.038	0.351	
5 自分を表現を豊にする	-0.371	-0.355	-0.05	0.08	1	-0.165	0.022	0.29	-0.318	0.198	-0.347	0.177	0.085	-0.347	-0.358	-0.241	0.33	-0.171	.572**	0.102	-0.245	-0.258	-0.475*	-0.091	0.273	-0.309	-0.241	0.362	
6 自分で成長する	0.023	0.136	-0.413	0.294	-0.165	1	-0.319	-0.197	.542*	-0.236	0.204	0.158	.734**	0.053	.699**	0.219	-0.477*	0.353	0.283	0.111	.588*	.462*	0.004	0.362	-0.289	-0.115	-0.358	0.076	
7 自分で成長する	0.283	0.106	-0.099	0.149	0.022	-0.319	1	0.208	-0.313	0.196	-0.401	0.032	-0.256	-0.401	-0.189	-0.211	0.348	-0.192	0.061	.472*	0	-0.294	0.102	.548*	0.359	.674**	0.159		
8 かわいいのて抱きしめたい	-0.145	-0.477*	0.266	0.184	0.29	-0.197	0.208	1	-0.673**	0.114	-0.407	0.03	-0.352	-0.407	-0.485*	-0.293	0.271	-0.297	-0.13	.490*	-0.185	-0.309	-0.197	-0.382	0.425	0.187	0.082	0.131	
9 イライラする	0.22	0.4	-0.590**	-0.252	-0.318	.542*	-0.313	-0.673**	1	-0.424	.480*	-0.124	0.367	.480*	.814**	.537*	-0.124	.489*	0.154	-0.520*	0.41	.531*	0.202	0.405	-0.499*	-0.278	-0.385	-0.045	
10 一緒にいると毎日に非実感があがる	-0.401	-0.182	0.199	0.316	0.198	-0.236	0.196	0.114	-0.424	1	-0.543*	-0.032	-0.064	-0.543*	-0.32	-0.422	0.018	-0.192	0.015	0.401	-0.381	-0.157	-0.546*	-0.443	.467*	0.266	.496*	0.371	
11 自分には乳幼児と関わることに通じていない	0.282	0.347	-0.108	-0.273	-0.347	0.204	-0.401	-0.407	.480*	-0.543*	1	-0.114	0.165	.744**	0.371	.516*	-0.109	0.261	0.074	-0.461*	.446*	0.382	.486*	.565**	-0.474*	-0.102	-0.157	-0.489*	
12 乳幼児の姿なら何でもできる	0.114	-0.011	-0.259	.517*	0.177	0.158	0.032	0.03	-0.124	-0.032	-0.114	1	0.29	-0.29	0.192	-0.098	-0.181	-0.269	-0.319	.695**	0.323	-0.015	-0.256	-0.054	0.079	-0.484*	-0.239	-0.01	
13 乳幼児よりも他のことに関心がある	0.009	0.202	-0.33	0.363	0.085	.734**	-0.256	-0.352	0.367	-0.064	0.165	0.29	1	-0.009	.528*	0.253	-0.307	0.407	0.192	-0.23	0.34	.533*	-0.17	.569**	-0.198	-0.409	-0.383	-0.068	
14 よく泣くので関わりたくない	.538*	0.429	-0.216	-0.576**	-0.347	0.053	-0.401	-0.407	.480*	-0.543*	.744**	-0.29	-0.009	1	0.371	.745**	-0.109	0.261	-0.09	-0.586**	0.207	0.382	.638**	0.38	-0.474*	-0.017	-0.157	-0.201	
15 活動が制限されてつまらない	0.419	.448*	-0.765**	0.028	-0.358	.699**	-0.189	-0.485*	.814**	-0.32	0.371	0.192	.528*	0.371	1	.548*	-0.224	.531*	0.22	-0.116	.682**	.668**	0.098	.465*	-0.336	-0.382	-0.352	0.08	
16 乳幼児と一緒で車気分転換できない	.631**	0.222	-0.435	-0.158	-0.241	0.219	-0.211	-0.293	.537*	-0.422	.516*	-0.098	0.253	.745**	.548*	1	0.245	.490*	-0.166	-0.378	0.249	.589**	0.306	.393	-0.074	-0.19	-0.217	0.064	
17 ひととおしく守ってあげたい	0.109	-0.474*	0.042	0.051	0.33	-0.477*	0.348	0.271	-0.124	0.018	-0.109	-0.181	-0.307	-0.109	-0.224	0.245	1	0.263	-0.195	0.185	-0.105	-0.082	-0.313	-0.104	.586**	-0.204	0.055	0.257	
18 乳幼児と関わりながら	0.052	-0.135	-0.22	0.062	-0.171	0.353	-0.192	-0.297	.489*	-0.192	0.261	-0.269	0.407	0.261	.531*	.490*	0.263	1	.486*	-0.143	.552*	0.225	0.031	0.321	-0.112	-0.38	-0.289	0.176	
19 相手が狭くなる	-0.156	0.085	0.104	-0.023	-0.572**	0.283	0.061	-0.13	0.154	0.015	0.074	-0.319	0.192	-0.09	0.22	-0.166	-0.195	.486*	1	0.074	0.373	0.15	0.083	0.152	-0.294	0.103	0.141	-0.341	
20 乳幼児と一緒で車気分転換することが多い	-0.013	-0.395	-0.017	.520*	0.102	-0.111	.472*	.490*	-0.520*	0.401	-0.461*	.695**	-0.23	-0.586**	-0.116	-0.378	0.185	-0.143	0.074	1	0.353	0.238	-0.443	-0.443	.532*	0	0.359	0.306	
21 乳幼児と一緒で車気分転換することが多い	0.191	0.021	-0.403	0.258	-0.245	.558*	-0.132	-0.185	0.41	-0.381	.446*	0.323	0.34	0.207	.682**	0.249	-0.105	.552*	0.373	0.353	1	0.238	0.132	0.328	-0.212	-0.39	0.265	0.018	
22 ママと交換しながら話したい	.467*	.657**	-0.680**	-0.117	-0.258	.462*	0	-0.309	.531*	-0.157	0.382	-0.015	.533*	0.382	.668**	.589**	-0.082	0.225	0.15	-0.268	0.238	1	0.126	.660**	-0.201	-0.141	-0.111	-0.238	
23 世間から取り残される	0.198	0.372	0	-0.306	-0.475*	0.004	-0.294	-0.197	0.202	-0.546*	.486*	-0.256	-0.17	.638**	0.098	0.306	-0.313	0.031	0.083	-0.443	0.132	0.126	1	0.291	-0.451*	0.121	-0.191	-0.358	
24 乳幼児よりも自分のことに関心がある	0.361	.620**	-0.429	-0.084	-0.091	0.362	0.102	-0.382	0.405	-0.443	.565**	-0.054	.569**	0.38	.465*	0.393	-0.104	0.321	0.152	-0.443	0.328	.660**	0.291	1	-0.267	-0.178	-0.132	-0.343	
25 乳幼児と一緒で車気分転換したい	0.143	-0.511*	0.232	.604**	0.273	-0.289	.548*	0.425	-0.499*	.467*	-0.474*	0.079	-0.198	-0.474*	-0.336	-0.074	.586**	-0.112	-0.294	.532*	-0.212	-0.201	-0.451*	-0.267	1	0.197	0.44	.606**	
26 乳幼児と一緒で車気分転換したい	0.017	0.066	0.357	-0.114	-0.309	-0.115	0.359	0.187	-0.278	0.266	-0.102	-0.484*	-0.409	-0.017	-0.382	-0.119	-0.204	-0.38	0.103	0	-0.39	-0.141	0.121	-0.178	0.197	1	.787**	0.057	
27 乳幼児こそ生きがい	0.157	0.077	0.283	0.038	-0.241	-0.358	.674**	0.082	-0.385	.496*	-0.157	-0.239	-0.383	-0.157	-0.352	-0.219	0.095	-0.289	0.141	0.359	-0.265	-0.111	-0.191	-0.132	0.44	.787**	1	0.059	
28 乳幼児は元気に暮らしてほしい	0.058	-0.426	-0.121	0.351	0.362	0.076	0.159	0.131	-0.045	0.371	-0.489*	-0.01	-0.068	-0.201	0.08	0.064	0.257	0.176	-0.341	0.306	0.018	-0.238	-0.358	-0.343	.606**	0.057	0.109	1	

* p<0.05, ** p<0.01

Ⅵ 考 察

本研究を行った中国都市部に住む母親のうち、フルタイムで働いている人は約8割を占め、保育所への通園は約6割を超えており、出産後も子育てをしながら働いている割合が高かった。一方で、実父母や義父母との同居世帯は約6割であり、親族の援助を受けながら子育てをしていることが推測された。中国では文化として祖父母と共同育児をすることが一般的とされ⁵⁾、付ら⁸⁾は中国の子育ての特徴として、出身家族と密接な関係を保ち、援助を受けながら子育てをしていると述べており、インフォーマルな支援によって支えられていると考えられる。このような中国を取り巻く子育て環境の中で、子育てをしている母親の乳幼児に対する関わり意識の実態について考察したい。

1. 乳幼児の子育てに対する認知

子どもが小さい時の子育てに対する認知として、「子どもが小さいうちは母親は育児に専念するのが望ましい」については、「賛成」もしくは「どちらかといえば賛成」という肯定的な考えは約6割以上であった。つまり、子どもが小さいうちは仕事に対して否定的であるにもかかわらず、実際には仕事をしながら子育てをしている母親は約8割を占めている。一見矛盾しているようにも見えるが、先に述べたように、本研究の母親は仕事をしながら育児をしているにもかかわらず、乳幼児に対して肯定的な感情を多く抱いていることから、必ずしも育児だけに専念し、日本のような三歳児神話の概念⁹⁾が根強いわけではないと言える。清水らは⁶⁾中国では「家事や子育ての負担を減らし積極的に仕事をするべきである」と考える母親に、育児ストレスが日本よりも高い者が多いと述べている。しかし、本研究の母親は家族または保育所など公的な社会資源を得ながら育児と仕事を両立していることからこそ、乳幼児に対して肯定的な感情が多いことが推察された。

2. 乳幼児に対する関わり意識の特徴

中国に住む母親の乳幼児に対する関わり意識について、育児を肯定的にとらえている項目のうち、「28. 乳幼児は元気に育ててほしい」が最も高く、「8. かわいいので抱きしめたい」、「25. 乳幼児と一緒に楽しい」、「17. いとおしく守ってあげたい」の順に高値を示し、肯定的な感情が高いことが明らかになった。なかでも、「28. 乳幼児は元気に育ててほしい」という項目は、中国人の母親は4.70であり、ネパール人の母親の研究¹⁰⁾の1.25に比べてかなり高く、子どもに対して肯定的な感情が高いことがわかる。一方で、日本人の母親を対象とした研究¹¹⁾では同項目は4.91と、中国人の母親の結果と近似していた。松村¹²⁾は「母性」とは《子どもがいとおしい、好き、可愛い、子どもと関わっているのが好きなど、いのちを慈しみ包含しぬくもりを伝えようとする意識と行動》と述べており、この母性を基盤として母子の相互作用や愛着形

成がなされる。

今回の結果で高値を示した乳幼児に対する関わり意識は、育児をしていく上で不可欠な感情であり、子どもに対する普遍的な愛情は国や民族の違いはない¹³⁾と言えるであろう。しかしながら、これらの普遍的とされる子どもに対する感情は社会的・経済的な要因で変わる¹³⁾ことが述べられている。つまり、その人が属する家族背景や集団の個性によっても影響を受けるといえる。松村らの調査において、ネパールではこれらの肯定的な意識が低かった¹⁰⁾ことは、複雑なカースト制度や根強く残る男性中心の家父長制度の中で、女性が家の中で子育てするのは当然というネパール特有の社会通念が影響していたが、中国人の母親では、仕事をしながらも父母との共同育児の中で乳幼児に対する肯定的な意識を持っていることが推察された。また、ひとりで子守りした経験について、「よくある」と回答した人は約3割と少なく、ほとんどの母親はひとりではなく、誰かと一緒に共同育児ができて環境にあることがわかった。このことは、相談できる相手がいる、育児は母親だけがするものではない、自分以外の誰かと子どもとの関わりから学べる、ことなどから母親にも心のゆとりが生まれ、子どもへの肯定的な意識へとつながったと考える。

また、子育てを通して自身の人間的な成長を感じる項目、「7. 自分も成長する」についても、中国人の母親では4.20であり、日本人の母親の4.48と同様の傾向であった。西田ら¹⁴⁾によると、35～44歳の子育て世代の母親において、「母親役割達成感」と「人格的成長」との関連を述べており、母親としての役割達成感が高いほど、自己成長を感じるという心理的幸福度が高くなることを明らかにしている。本研究の対象者も同じ年代の母親であり、思い通りにならない育児、子ども中心の生活でありながらも、様々な育児の困難を乗り越えつつ母親役割を担うことで、自己も成長することができると肯定的に捉えているのではないかと推察された。

一方、乳幼児に対する関わり意識のうち否定的な感情である「1. 楽しみや趣味を持ってない」は28項目の中で最も低値を示しており、中国人の母親はネパール人や日本人の母親よりも低かった。約8割の母親が「全く違う」、「違う」と感じていることから、子育てをしながらも趣味など自分の楽しみを持っていることが推察された。次に、「11. 自分は乳幼児と関わることに適していない」が低値だったことから、母親として子どもとの関わりに自信を持ちながら育児をしていることが示唆された。加えて、「14. よく泣くので関わりたくない」、「16. 乳幼児と一緒にでは気分転換できない」、「22. オムツ交換など汚い世話はしたくない」、「23. 世間から取り残される」の順に低値を示している。すなわち、これらのことから中国人の母親は乳幼児との関わりにおいて、肯定的な感情を持って子育てをしていることが明らかになった。清水らは⁶⁾中国の一人っ子政策時代において、育児ストレスの高かった原因について、次のように述べている。子は国家のものであり、宝のように育てるという考えのもと、幼児期の早いうちに親や祖父母から独立させなければならず、育児に伴う束縛感や、育児に不慣れである。しかし、本研究の母親では、ストレス要因となるような否定的な感情は低値を示していた。このことは、

中国の政策転換に伴い子育て文化が変化し、開放的な子育て意識になったことで、祖父母からの協力を得つつ前向きな気持ちで育児ができていないのではないかと考える。

また、乳幼児の世話経験の結果からも示されるように、「抱く」、「飲ませる」、「おむつ交換する」など育児の基本的な行動については全ての母親が日常的に行なっていることがわかる。乳幼児の「世話をする」という行為の中で、親と子どもの相互作用が生まれる。「世話をする」ことを通して育児の様々な困難を乗り越え、自己肯定感を感じ、人としての温かみ、懐の広さを備え持ち親として成長していく¹⁵⁾と言われるように、この一連の世話経験は非常に重要であると言える。このことは、子どもとの接触経験の量が、育児の肯定的なイメージや養護性に影響を与える¹⁶⁾ことから明らかである。

3. 乳幼児に対する関わり意識を構成する項目間の関連

乳幼児に対する関わり意識を構成する項目について、項目間の関連を見ると、「26. 乳幼児と関わっているときが自分らしい」と「27. 乳幼児こそ生きがい」は強い正の相関があり、育児と自分のアイデンティティは密接に関わっていることが示唆された。また、「6. 自分の思い通りにできない」は「13. 乳幼児よりも他のことに関心がある」や「15. 活動が制限されてつまらない」との相関関係があった。そのほか、「15. 活動が制限されてつまらない」は「9. イライラする」との関連、「14. よく泣くので関わりたくない」は「11. 自分は乳幼児に関わることに適していない」や「16. 乳幼児と一緒に気分転換できない」との関連があった。ここで着目すべきことは関連があった項目は否定的な感情が多く、否定的な感情ほど相互に関連し合うことが明らかになり、ネガティブな感情は負の連鎖に陥りやすいことが示唆された。先で、中国人の母親は乳幼児に対してあまり否定的な感情を抱かずに育児をしていることを述べたが、一方では否定的な感情を持つ母親は更に否定的な感情を生みやすいことがわかった。鈴木は¹⁷⁾子どもが生まれたからといってすぐに母親としてのアイデンティティを確立できるわけではなく、育児に対しての否定的な感情を経験しつつも少しずつ親になっていくと述べている。また、柏木ら¹⁸⁾は、3歳から5歳児の親を対象とした調査で、子どもと過ごす時間の少ない父親は育児に対して肯定的な感情が多くを占めているのに対し、母親は育児に対して肯定的感情と同時に、否定的な感情もあわせ持つアンビバレントな心理状況にあることを明らかにしている。

また、「3. 気持ちが安定する」ほど、「15. 活動が制限されてつまらない」や、「22. オムツ交換など汚い世話はしたくない」、「9. イライラする」といった否定的な感情を抱かないことがわかった。また、「9. イライラする」ほど、「8. かわいいので抱きしめたい」と思えず、「3. 気持ちが安定する」ことが無く、「20. 乳幼児に一番の関心がある」、「25. 乳幼児と一緒に楽しい」などと思えないことが明らかになった。このことから、イライラせずに、気持ちが安定した育児ができるようなサポート体制は重要であると言える。河野¹⁹⁾は1歳児と3歳児をもつ母親を対象とした調査において、現代の母親は子どもを大切に思い一生懸命に関わるからこそ、完璧

な母親になろうとしたり思い通りにいかずイライラしたり、周りの人の評価が気になり他者との信頼関係を築けないといった現状があると述べている。今回の調査では明らかにできなかったが、子どもへの肯定的な感情を抱いているからこそ、完璧な母親像を求めて葛藤を抱く可能性があることも知っておかなければならない。刻々と変化する時代背景や国の文化、母親達の育児の価値観や思いをしっかり捉え、児への肯定的な感情を前向きな育児への動機付けとなるような関わりが必要であると考え。現代は多様性が重視され、女性一人ひとりの社会的な活躍と様々な自分らしい生き方を求められるようになった。しかし、子どもが生まれると状況が一変し、特に乳幼児期では育児に追われ子どもが中心の生活になる。そのような中でも、子どもを慈しみ、豊かな感情を抱いて子育てができるよう支援することが肝要である。

Ⅶ 結 論

本研究において、自国で子育てをしている中国人の母親の乳幼児に対する関わり意識が初めて明らかになった。

- ・中国人の母親において、乳幼児に対する関わり意識は肯定的な意識が高く、否定的な意識が低かった。
- ・6割の母親は子どもが小さいうちは育児に専念するのが望ましいとしつつ、仕事を持ちながら子育てをしている人が多かった。

Ⅷ 研究の限界と課題

本研究の限界は、協力を得られた対象者が20名と少なく、中国の一部の地域での調査となつた為、中国全土での状況を明らかにすることはできなかった。COVID-19感染拡大下で、対象者のリクルートが困難だったことが影響しているが、今後はさらに対象者数を増やした上で、中国に住む母親について調査する必要がある。また、対象者の背景として経済状況や学歴、同居家族構成、詳細な子育てサポート状況など、乳幼児への関わり意識の関連要因となる内容を考慮し、調査することが課題である。今後は本研究で得られた知見を基盤として、さらに発展的な研究をしていきたい。

謝 辞

大変忙しい中にもかかわらず、本研究にご協力いただきました研究対象者の皆様に心より感謝いたします。

〔文 献〕

- 1) j. Bowlby/ 黒田実郎, 大場蓁, 岡田洋子, 黒田聖一監訳: 母子関係の理論, 1 愛着行動. 岩崎学術出版会, 東京, 1991, p313-314.
- 2) 野澤祥子, 淀川裕実, 他 3 名: 乳児保育の質に関する研究の動向と展望. 東京大学大学院教育学研究科紀要, 56, 399-419, 2017.
- 3) 松村恵子: 子育てにおける文化的背景と性役割, —ネパール王国における乳幼児の子育てに関する経験と認知—. 比較文化研究, 85, 79-87, 2009.
- 4) 母子保健の主なる統計 (令和 4 年): 公益財団法人母子衛生研究会, 114-115, 2022
- 5) 陳卓君: 0~3 歳の保育における中国と日本の比較研究—乳幼児保育の期間から見えてきたもの—. 授業実践開発研究, 11, 69-77, 2018.
- 6) 清水喜子: 母親の育児ストレス国際比較—韓国 (京畿道)・中国 (北京)・ブラジル (ブラジリア)・日本 (静岡) から—. 母性衛生, 45(2), 159-169, 2004.
- 7) 松村恵子: 母性意識を考える. 文芸社, 東京, 2005, p38-60.
- 8) 付国偉: 中国都市部における子育ての特徴に関する調査研究—中学生を持つ親を対象として—. 立命館産業社会論集 41(4) 2006.
- 9) 大日向雅美: 母性愛神話の罫. 日本評論社, 東京, 2000, p83
- 10) 松村恵子: 母性意識と文化的な背景—ネパール王国における乳幼児に対する関わり意識の構造—. 比較文化研究 101, 323-335, 2012.
- 11) 松村恵子: 母性意識を考える. 文芸社, 東京, 2005, p87.
- 12) 松村恵子: 母性意識を考える. 文芸社, 東京, 2005, p16.
- 13) 姜波, 佐々木正美, 他 3 名: 岡山・上海・大連における子育てに関する比較考察. 川崎医療福祉学会誌 12(2), 197-208, 2002.
- 14) 西田裕紀子: 成人女性の多様なライフスタイルと心理的 well-being に関する研究. 教育心理学研究. 48, 433-443, 2000.
- 15) 村本茉由: 子育てを通じた親の成長と親の成長に関連する要因についての展望. 甲南女子大学大学院論集 19, 49-56, 2021.
- 16) 礪波朋子: 女子大学生の乳幼児との接触経験と育児イメージ及び養護性との関連. 京都光華女子大学研究紀要 49, 13-25, 2011.
- 17) 鈴木健史: 子育て支援における親の人間的発達とは: 支援プログラム作成に向けて. 人間関係研究. 南山大学人間関係研究センター紀要, 14, 229-240, 2015.
- 18) 柏木恵子, 若松素子: 「親となる」ことによる人格発達: 生涯発達の視点から親を研究する試み. 発達心理学研究 5(1) 1994.
- 19) 河野順子: 母親が抱える育児不安に関する要因—子どもの育てにくさ, 母親の認知様式, 父親の育児参加をめぐって. 東海学園大学研究紀要, 16, 55-64, 2011.

(はやせ まこ 看護学科)

(たじり きみこ 看護学科)

(まつむら けいこ 関西看護医療大学 看護学部看護学科)

2022 年 9 月 30 日受理